

損害車の買取 全国展開

タウ

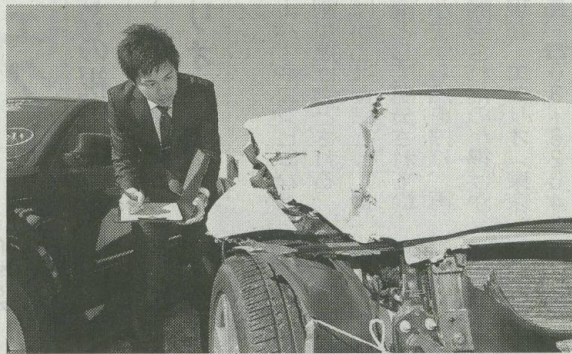
国内主要都市に18支店

海外事業拠点も拡充へ

損害車の買取でトツプシエアを誇るタウ

(さいたま市、宮本明岳社長、☎048・601・0811)は、

国内主要都市に18の支店を構え、事業エリアを全国に広げている。海外拠点についても、東南アジアやアフリカなどで拡充を図っている。



損害車は120カ所査定する

万8000台になる見込み。最近では乗用車だけでなく、トラックや

同社は日本と海外との損害車に対する価値観や修理価格の差に着目し、事故や災害、故障で損傷した車両を中心としたリユースビジネスを展開している。今期の仕入台数はリユース向け車両と解体業者に引き渡す車両を合わせて7

建設機械などの扱いは増やしている。車両は自動車関連業者、損害保険会社、リース会社、一般個人から仕入れ、120カ所の査定を行う。損害車を活用する仕組みは、最適なりユース・リサイクルの方法を選択するカー・トリアージを用いて、損壊度と走行距離に応じて修復利用、部品利用、素材利用に選別する。



事故や災害、故障で損傷した車両を仕入れる

商品は独自に開発したオークションサイトで、情報と価格の信頼性・透明性を確保して

いる。販売先が決定した車両はロシア、アジア、南米、中東を中心とした約110カ国に中古車として輸出し、現地で修復が行われる。海外拠点はオーストラリア、ロシア、UAE、チリ、マヤンマーの5カ国にオフィスを構える他、販売エージェントを17カ国に配置している。新興国では自動車需要が旺盛な上、日本車のニーズが高く、修復歴がある自動車への抵抗感も少ないことから、インドネシアやベトナムなどの東南アジア、アフリカの国々で販売マーケットのさらなる拡大を進める。

宮本社長は「日本ではリユース目的での販売が難しい損害車であっても世界各地で修復され、多くの人々に喜ばれてきた。今後は損害車だけでなく、中古機器の販売にも力を入れ、グローバルな循環型社会の構築の実現を目指していく」と述べている。